

生涯にわたって  
社会のいたるところで学ぶための方法序説

# ウィズコロナ時代の地域大学における 新しいコミュニティづくり

中泉 理奈

提案・ウィズコロナ時代の生涯学習・社会教育事業で、新しい地域コミュニティ（地域をよりよくするために活動する住民同士のつながり）をつくる学習支援の工夫を考えてみましょう。

## 1. 学びを通じた地域コミュニティづくりはオンライン講座でできるのか？

私が本誌に寄稿した「コロナ禍での学びを止めない事業づくり（2020年12月号）」の記事をきっかけに、第58回東京都公民館研究大会の第一課題別集会（令和4年1月26日開催）にて「公民館にとつてのオンラインとは」をテーマに荒川コミュニティカレッジ（以下、コミカレ）（注1）でのオンライン活用での学習支援について報告をさせていただきました。

人や地域を結ぶ学びの場（公民館）がオンラインを活用して、その機能をどう維持・発展させることができるのか。この問いは、ウィズコロナ時代に社会教育事業を

組んでいる学習支援者の多くが抱いている課題だと私は思っています。

私自身もオンラインを活用して人と人との関係を紡ぐ学習支援について十分に想像ができていませんでした。そのため、令和2年度のコロナ禍当初は学びを止めないという強い思いの中で、オンラインを活用した学びの場づくりに邁進し、実践を積み重ねながら新たな学習支援を模索しました。令和3年度は、オンライン講座の企画・運営方法を見直し、学びを通じて人・地域との出会いやつながりをより積極的につくっていくことを目指しました。

今回は、コロナ禍の社会教育・生涯学習の講座における新たな地域コミュニティづくりについて、私がコミカレで社会教育指導員（以下、指導員）と共に取り組んだ学習支援の工夫と気づきについて紹介します。

## 2. 人や地域を結ぶ学びの場づくり

令和3年度の講座は、基本的に

は対面講座（会場に集まって行う講座）で実施しました。また、新型コロナウイルスの感染拡大に応じて、対面講座からWeb会議システムを用いたオンライン講座に切り替えて、講座運営ができるようプログラムを組みました。

表1で分かるように、あらかわまちづくりコースでは、年20回の講座のうち、8回を対面講座からオンライン講座に切り替えて実施しました。このように柔軟な対応をするための学習支援の工夫は、本誌2021年11月号「発想する！授業 学びを地域活動につなげるには？」で紹介しています。

あらかわまちづくりコース年間プログラムの後半（第15～19回）には、学びを活動につなげていくために行う事業企画講座と学習成果発表があります。東京都では令和4年1月下旬から新型コロナウイルス感染者数が連日1万人を超える状況でした。コミカレでは、学習成果発表に向けて話し合い中心の講座をオンラインで実施する

検討にあたっては、受講生が安心して学べる環境づくりを第一に考えることにしました。受講生た

ちがコミカレの講座でオンラインを用いた話し合いの経験があったこと。また、対面講座で、受講生

同士の関係づくりができてきたこと。さらに、オンライン講座では、コロナ感染の不安が軽減され、マ

スクを外して顔を見ながら話をすることができると。これらを踏まえ、オンラインで学習支援が行

表1 あらかわまちづくりコース

- テーマ わたしたちのまちや暮らしを地域の知恵と工夫でより良くする学習
- 目的 さまざまなテーマについて、住民主体でできることや連携先をみつける講座暮らしや地域活動をよりよくするための学習方法を体験的に学びます。さまざまなテーマについて仲間と話し合い、新しい着眼点のまちづくり活動に
- 学習方法 集合講座を基本とします。必要に応じてZOOMを使用し、オンライン講座となる場合があります。

回数	日程	学習方法	テーマ	講師
1	4月24日	対面 (会場集合)	生涯学習とまちづくり協議 「大人の学び」と「まちづくり」をキーワードに、地域や暮らしをより豊かにする視点を学びます。	立正大学教授 大島 英樹 氏
2	5月8日	※オンラインに 変更	仲間との学びをよりよいものに クラスの仲間と知り合います。学びを広げていくためのコミュニケーションを 学びます。	合同会社Active Learners
3	5月15日	※オンラインに 変更	荒川区の生涯学習とまちづくり 荒川区の生涯学習とまちづくりについて学び、今後の活動に活かします。	荒川コミュニティカレッジ事務局
4	6月5日	対面 (会場集合)	心をひらく姿勢学 姿勢を見つめ直すことで、心の扉を開きます。心も体も健康に今後の学習に つなげます。	ウォーキング専門会社(株) Cowalking 代表 藤田 洋江 氏
5	6月26日	対面 (会場集合)	相手も自分も大切にコミュニケーション 身近な人とのコミュニケーションをよりよくするための視点を学びます。 市民主体のまちづくり～花フェスから見えるまち～	埼玉学園大学教授 杉山 雅宏 氏
6	7月3日	対面 (会場集合)	中間支援組織のコーディネーターの話をとらえ、地域の資源やネットワークを 活かしたまちづくりについて学びます。イベントを実践者の声を聞き、あらか わのまちづくりに関して学びます。	社会福祉法人荒川区社会福祉協議会 荒川ボランティアセンター 浅野 秀明氏 花やMO MO 店主 「下町花・フェス！」委員会代表 大竹 ミキ氏
7	7月10日	対面 (会場集合)	多文化共生のまちあらかわ 地域の様々な国籍の親子との交流や支援について実践者の声から協力し合うま ちづくりについて考えます。	東京ボランティア・市民活動センター 統括主任 熊谷 紀良 氏 多言語パーク代表 白井 美典 氏
8	8月4日	※オンラインに 変更	川に親しむまちあらかわ 荒川区の環境について学びます。「隅田川」に親しむ地域活動について紹介し ます。	環境課長(動画) 地域活動団体 「川はともだち」
9	9月25日	※オンラインに 変更	話し合いがもっと豊かになる ファシリテーションのコツ 学びを広げていくためのファシリテーションについて体験的に学びます。	合同会社Active Learners
10	10月2日	※オンラインに 変更	「自助・共助」を考える 防災お片付け 防災備蓄の内容や収納について学びます。地域で共に助け合う防災活動につい て考えます。	整理収納アドバイザー 防災士 関島 のり子 氏
11	10月9日	対面 (会場集合)	体験しよう！心のバリアフリー 地域の多様な人が社会に参加する上で感じている心のバリアをなくす「心のバ リアフリー」について、地域活動団体の生の声から考えます。	心のバリアフリー講師 社会福祉協議会 地域ネットワーク課長 福田 めぐみ 氏
12	10月30日	対面 (会場集合)	仲間ふりかえり これまで学習したことをふりかえります。実施した学習手法について改めて学 びます。	立正大学教授 大島 英樹 氏
13	11月13日	対面 (会場集合)	学びの場づくりで大切にしたいこと 地域学習を活動につなげる視点や人と交流する「場」のチカラを学び、自分た ちがやってみたい場づくりを考えます。	玉川大学教授 笹井 宏益 氏
14	11月28日	対面 (会場集合)	学園祭 学園祭は修了生が活動する地域活動団体が日ごろの活動を発表します。積極的 に知り合って、ネットワークをひろげましょう。	
15	12月4日	対面 (会場集合)	学園祭を通じて発見したこと共有とグループ決め 学園祭のふりかえりをします。また、お互いの興味関心を改めて共有し、実践 企画を考えるグループづくりをします。	荒川コミュニティカレッジ事務局
16	1月15日	対面 (会場集合)	学びの場を企画する 事業の組み立て方を学び、まちを効果的に紹介する企画書を作成します。	立教大学特任准教授 高井 正 氏
17	1月22日	※オンラインに 変更	準備・話し合い学習 学習成果発表に向けて、前回作成した企画書をもとに皆さんで話し合います。	立教大学特任准教授 高井 正 氏
18	2月5日	※オンラインに 変更	準備・話し合い学習 企画をより深めていきます。	荒川コミュニティカレッジ事務局
19	2月19日	※オンラインに 変更	学習成果発表 企画したものを実施し、学習成果発表を行います。	立教大学特任准教授 高井 正 氏
20	3月5日	対面 (会場集合)	まとめ 一人ひとりと、これまで学んだことをふり振り返り、修了後の活動につなげます。	立正大学教授 大島 英樹 氏

## 3. 地域コミュニティをつくる学習支援

今回は、「荒川区のま  
ちをもっと良くするた  
めに私たちができるこ  
と・やってみよう」と  
いうテーマで学習成  
果発表を行うことを受  
講生に説明し、事業企  
画を行いました。新し

いコミュニケーションづくりを意識した学習支援実践の一部を次の視点から述べます。

### (1) 興味関心に沿ったグループづくり

事業企画に向けて大事になってくるのは、興味関心でつながるグループの存在です。幸いなことに、学習成果発表に向けた1回目(表1・第15回参照)の講座は、対面を実施することができました。グループをつくる際、テーマ設定の参考にSDGsについて事務局から紹介しました。また、グループは3人以上にすること、受講生同士で話してグループをつくることを伝えました。

グループのつくり方は、次のとおりです。

- ①A4のワークシートに関心のあることやクラスの方と取り組みたいことを記入します。
- ②次に、書いたものを他の受講生に見るように持ちます。
- ③他の受講生のシートを見て、話してみたい人のところに行き、書いたことをお互いに紹介し合

います。私たち学習支援者は、必要に応じて間に入って交流を促します。

### ④何人かと話が出来ている様子を

確認し、一旦、仮のグループで円座に座ります。事業企画でどんなことをやってみたいかについてグループで話し合いをします。

⑤クラス全体で話し合いの内容について情報共有します。この時、他グループへの移動も認め、次回の講座でグループを確定します。個別に相談があった場合、事務局でグループ分けの微調整をします。

写真1は、グループ分け後の話し合いの様子です。私たちは、受講生が自分の考えを発言できる雰囲気づくりに努めました。

今回は、2回目に欠席者が多かったことで、グループ分けを3回目を持ち越すことになりました。3回目は、前述した通り、コロナ感染が拡大しオンラインに変更して実施することになりました。最

終的なグループ決めには、講座の半分以上の時間を要しました。私たちはオンラインでのコミュニケーションや時間の進行管理の難しさを感じました。進行していた指導員がひとりひとりに呼びかけ丁寧に意見を聞いて、受講生や講師の協力により、3つのグループになることができました。

私たちは、グループで話し合える時間が少なくなってしまうことが気がかりでした。しかし、グループに分かれてからの話し合いでは、さまざまな想いやアイディ

アが出され、楽しそうな様子を見ることができました。時間はかかりましたが、グループに分かれる際「どんなことがしたいか、なぜならば？」と個々の想いや、意見を出し合ったことが功を奏しました。お互いを知ることが、その後の話し合いや合意形成をスムーズに進めることにつながりました。

### (2) オンライン講座における学習支援と情報提供

グループができてからの事業企画講座では、Web会議システム内の各グループに指導員がひとりずつ入り、学習支援を行っていました。そこでは、それぞれの指導員が、地域活動の先行事例や各分野の所管課事業や地域活動などを紹介しました。

講座外の支援として、グループがコミカレ研修室を利用(コミカレ事務局開館日に限る)できるよう手配もしました。しかし、ほとんどのグループがWeb会議システムのミーティングルームを作成し、話し合いを行いました。

受講生の間で、こうした自主的な学びが可能となったのは、一年を通してオンライン講座に関する学習支援を行ってきた成果だと思います。また、対面講座やオンラインを通じた話し合い学習から、関係づくりができていたことも無視できません。オンラインでの学習活動では、クラウドストレージサービスやメッセージアプリを活用したグループもありました。コミカレ事務局の働きかけに加え、受講生の柔軟な学習姿勢が、自主的な学習活動につながったのだと思います。

学習成果発表に向けて、指導員は各グループに進捗確認を行いました。その結果、グループのメンバーが機器の使い方を個別に教えあったり、オンライン環境がない方に電話で情報を共有したりと、各グループでさまざまな工夫をしている様子を知ることができました。

学習成果発表の資料は約1週間前を締め切りとし、コミカレ事務局で、掲載内容や引用の表記などを

を確認し、発表準備を行いました。

### (3) 地域活動のきっかけとなる学習成果発表

学習成果発表もオンラインで行うことになったため、事務局で実施方法を検討し、成果発表について、各グループに次のように伝えました。

①発表時間は各グループ15分間で

②グループごとに進行役と発表者を決めてください。

③15分間の発表後、発見したことや感想などをおひとりずつ伝えてください。

写真2は、オンライン学習成果発表時の事務局の様子です。オンラインの環境を持たない受講生も一緒に参加できるように、事務局に機器を準備しました。

発表内容については、講師や担当の所管課職員に講師をいただき、今後の地域活動に役立つ情報を得られるようにしました。

非常に興味深かったのは、短い時間の中で、ホームページやSNSを立ち上げるグループがあったことです。年間講座の中で対面とオンラインを併用したことで、受講生が両方の良さを知り、できることの幅が広がったのではないかと私は考えます。事業企画の体験学習を通じて、具体的な活動をはじめたグループがあったこと

とはこの事業の成果のひとつと言えるでしょう。

### 4. 学びを通じた新しい地域コミュニティ

コミカレの取り組みは、受講生にどのような教育効果をもたらしたのでしょうか。受講生から「修了文集」に寄せられた感想を一部抜粋して紹介します。

「コミカレに参加して一年、色々なことを学びました。仕事以外で幅広い世代の方々とお話する機会は滅多になく、貴重な場でした。

私自身の一番の収穫は、コミカレ同期生との出会いです。コミカレのグループワークを通して、一人では出来なくても、チームでなら出来ることを改めて感じました。区全体をチームと見立て、お互い助け合っている地域になればいいな、と考えるようになりました。

これからもコミカレで出会った仲間達と地域に根ざした活動

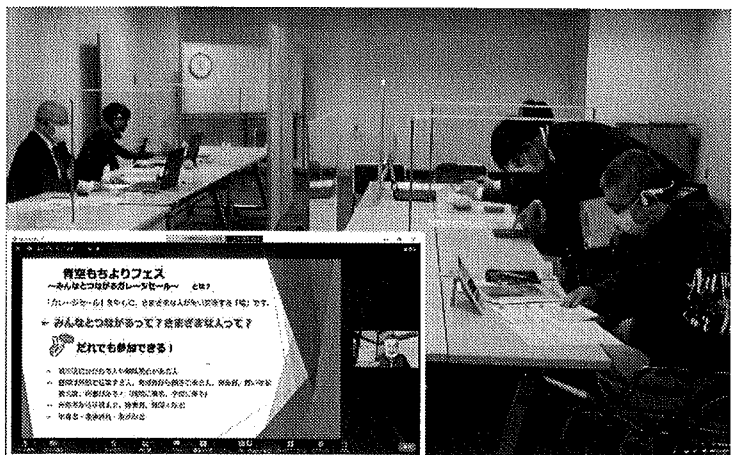


写真2 オンライン学習成果発表の様子

写真1は、グループ分け後の話し合いの様子。受講生が自分の考えを発言できる雰囲気づくりに努めた様子。



写真1 事業企画グループでの話し合いの様子

を自らも楽しんでやっていけたらと思います。」(30代・女性)

この寄稿からは、働き世代の方が学びの場に参加したことで、新たな出会いが生まれたことが分かります。彼女にとってそうした出会いは、地域への愛着を育み、地域活動に取り組みきっかけとなったようです。

「毎回異なる分野の講師の方の話には、多くの学びがありました。特に、実際に区内で活動している先輩たちの思いや体験談はとても刺激的でした。自分も何かやれるのではないかとという勇気が湧いてきました。」

また、コロナ禍ではありましたが受講生同士のグループワークも徐々に行われ、仲間と一緒に学んでいる実感も持てました。またその過程で同期生だけでなくコミカレの先輩方とも接する機会も多く、10年以上続くコミカレネットワークの分厚さに感動しました。その輪の中に

自分も入っていきけるのだと思うと、とても心強いです。」(50代・男性)

この寄稿からは、これから自身を取り組みたい地域活動について胸を膨らませている様子が伺えます。クラス内だけでなく、地域で活動している方と知りあえたことで、地域活動のハードルが下がったと言えるのではないのでしょうか。

私たちが講座内外で受講生と地域活動者(修了生)が関わる機会を調整した結果、地域活動そのものをより身近に感じていただけたのではないかと思います。

ここで紹介したおふたりの感想は、コミカレから新たな地域コミュニティが生まれつつあるということを示唆しています。私は、学習支援者が学びを通じたつながりづくりを意識することの重要性を感じています。

コロナ禍の一年を振り返ってみると、ウィズコロナの時代を乗り切るためには学習支援者(運営者)も、学習者(市民・参加者)もオ

#### コース担当指導員

くりは、社会教育に新たな息吹を吹き込むと感じています。一方で、講座を担当した学習支援者は対面とオンラインで講座を運営した一年間を振り返り、どのように感じているのでしょうか。担当指導員が修了時に受講生に向けたメッセージ「瓦版(コミカレ情報誌)」に掲載を紹介します。

「第11期生の皆さま、修了おめでとうございます。突然の会場変更やオンライン形式での開講など、皆さまには多くのご苦労とご不便をおかけしました。それにもかかわらず、いつも柔軟に対応してくださったことに感謝の言葉しかございません。」

怪我の功名とは申しませんが、こうした困難はWeb会議システムという新たなツールを修得し、仲間との繋がりを維持する一助になったのではないかと思います。修了後も、この一年で得た経験を大切にしていただければ、職員としてこの上ない喜びです。」(あらかわまちづくり

ンライン学習の選択肢を持つておくことが必要だと思えます。

私たちはコロナ禍において、新しい学習支援の方法について紆余曲折を重ねながら獲得していきました。より良い社会教育の環境を作るために、私は学習支援者同士が日頃から相談・情報共有できるネットワークを意識的に形成していくことが大事だと思っています。

#### 5. 参加者と共につくる学びの可能性

今回の経験を踏まえ、今後のオンラインを活用した講座運営について考えてみます。

「修了文集」に寄せられたオンラインでの学習についての感想・意見を紹介します。

「コロナの第5波と第6波の影響で、講義のみならず、学園祭もオンラインにならざるをえませんでした。オンライン講義を活用して、離れた地域の人々との交流は、講義内容の広がりを感じました。」

グループワークでは、オンラインの不自由さを感じ、また、講義以外の同級生との交流が制限される一方、オンラインを活用することによって、より広範囲にかつ深く学べることも体験できました。

今後は、オンラインを単に、対面講義の補完的なものとしてではなく、そのメリットを生かし、対面とのベストミックスの組み合わせによって、より効果的な学びの機会が拡大することを期待しています。」(60代・男性)

この寄稿からは、オンライン学習の導入が、遠隔地の人を結ぶ新たな学びの可能性を生んだことを示しています。

コロナ禍において、私たちはオンラインを対面講義の補完的な方法として捉えていました。しかし、オンラインを活用することで学びや交流がさらに広がることになりました。私は、対面とオンラインを組み合わせていく学びの場、つ

#### 地域コミュニティづくりを意識した事業を展開していきます。

令和4年2月28日、「発想！する授業」のオンライン交流を実施しました。

本誌に寄稿されている先

生方や読者の皆様とお話しができ、私にとって貴重な機会となりました。私はこの交流を通して、オンライン講座の参加者の気持ちを体験的に学ぶことができたように感じています。正直、オンライン上でグループに分かれた直後、少し緊張しましたが、和やかな交流と活発な情報交換ができ、充実した時間になりました。

私が、執筆する際の悩みについて話をした時、本誌に長年寄稿されている方も同じような思いを感じていたことにも驚きました。アドバイスを参考にこれからも実践を書いて発信していきたいと思

ます。



写真3 Web会議システムを使用した「発想！する授業」オンラインでリアルな交流会 2月28日(月) 20:00~21:30実施

今後とも積極的にみなさまとの交流を行っていきたいです！ご参加いただいたみなさま、ありがとうございました。

(注1)平成22年10月に開校した地域の担い手育成を目的とした区直営の地域大学。私がこれまでコミカレで取り組んできた学習支援については「生涯学習支援のデザイン」高井正、中村香(編著)玉川大学出版部50・53頁で、「荒川コミュニティカレッジ」が生み出す新たなつながり」で紹介しています。

中泉 理奈(なかいずみ・りな)  
荒川区地域文化スポーツ部生  
生涯学習課社会教育主事